

仙台城跡大手門跡および周辺発掘調査（第2次）の成果について

1 調査要項

調査地点 仙台市青葉区川内 15-19、川内無番地 調査期間 令和6年6月17日～12月11日
調査面積 約 71 m²

2 調査概要

『史跡仙台城跡整備基本計画』に基づき、大手門周辺の史跡整備のための発掘調査を実施した。令和6年度はそのうちの第2次調査であり、古写真や図面等をもとに、大手門が建てられていたと考えられる地点で調査を実施した。大手門脇^{わきやぐら}櫓（再建）の北東側（1区）と南側（2区）、西側（3区）の3地点に調査区を設定した。そのうち2区と3区では、大手門に関連する遺構として、礎石跡と石組側溝が検出された。また瓦を主体とした遺物が出土した。

1区では、大手門焼失後に行われた道路造成に伴う削平と、令和5年度の調査で検出されていた埋設管設置に伴う大規模な掘削が確認された。戦後の掘削が及ばなかった脇櫓石垣の基部付近では、脇櫓周辺の造成に伴う盛土層や、石垣の根石が確認された。

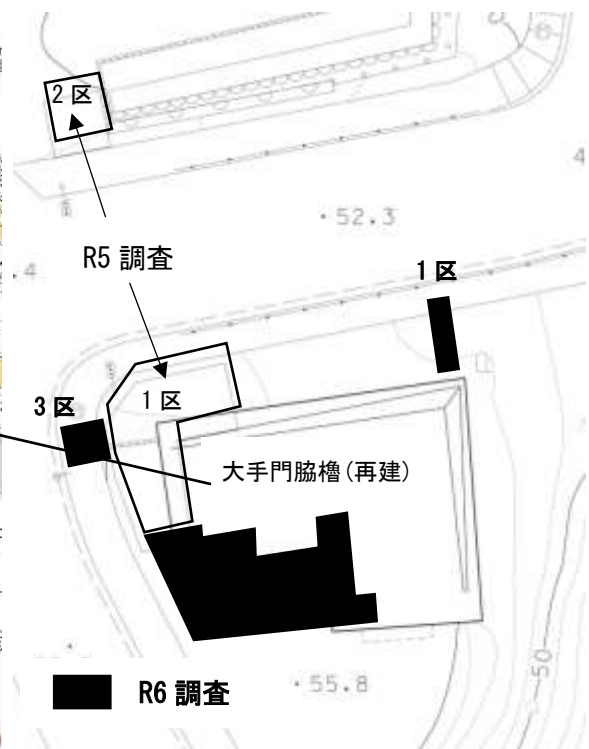
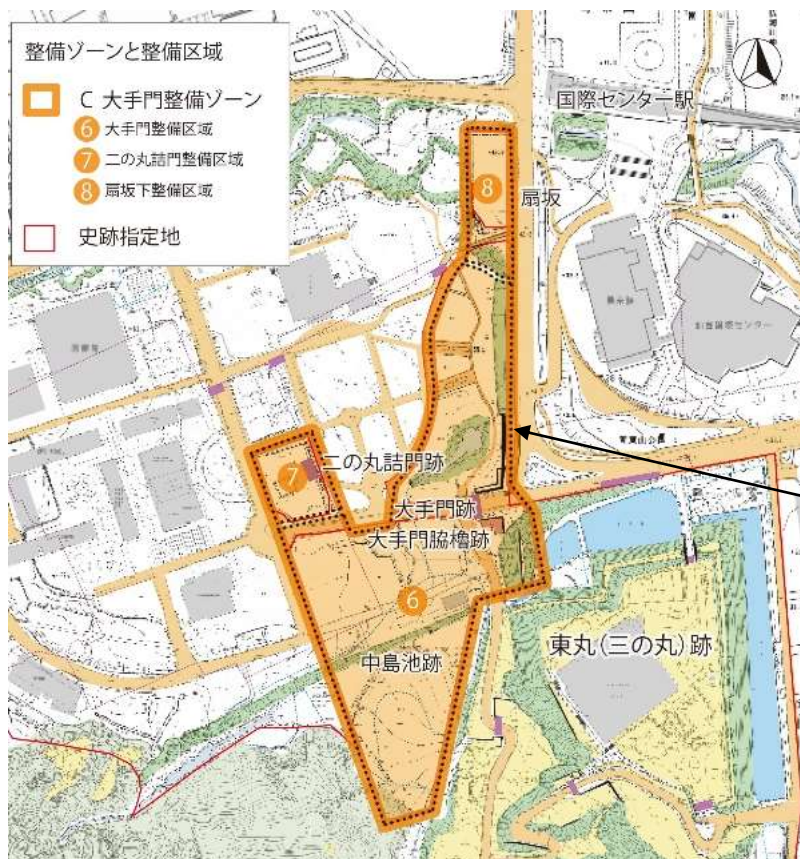
2区では、令和5年度に確認した石組側溝の延長で、雨落ち溝と考えられる石組側溝が検出された。石組側溝は大手門脇櫓（再建）に沿って検出されており、再建された脇櫓の南側は焼失前の脇櫓とほぼ同じ位置に建てられたと考えられる。さらに、石組側溝の背面では木端石を詰め込んでいる様子が確認され、側溝の構築状況が明らかになった。この石組側溝の構築年代は、令和5年度に確認された石組側溝と同一のものであることや構築された層位から、明治時代の陸軍第二師団による大手門修復に伴い設置されたものと考えられる。

また、2区西端では、令和5年度1区から続く急角度の溝状の掘り込みが確認された。掘り込み内からはコンクリート片等が出土したほか、石組側溝の側石と同形の四角錐の石材も複数見つかり、石組側溝を壊して掘り込まれ、埋め戻しの際に投入されたと考えられる。

2区の一部では、明治時代の構築と考えられる石組側溝を覆う整地層の下層を確認するための調査も行い、自然堆積層の上面に整地層が斑状に分布していることを確認した。また、今回の下層調査範囲では江戸時代に遡る遺構は確認されなかった。

3区では、令和5年度に確認した礎石跡の延長線上で、礎石跡を検出した。礎石は残っておらず、掘方とそれに充填された根固め石が確認された。地山である粘土層を掘り込んでいることが確認されたが、本来の掘り込み面は戦後の改変により削り取られたと考えられる。礎石跡の北側は埋設管のため東西方向に削られ、西側についても別の埋設物の設置によって南北方向に削られている。

令和6年度の調査では、大手門および脇櫓に伴う遺構として、石組側溝と礎石跡を確認した。令和5年度の調査成果と併せて検討すると、これまでに検出した4箇所の礎石跡は大手門南辺の柱列であると考えられ、古写真に加え、礎石跡と石組側溝との位置関係から、南辺の柱のうち東から2～5番目の礎石跡であると考えられる。これらにより、大手門の南西隅の位置が明らかになったことで、大手門の位置と範囲を絞り込むことが出来るようになり、また、広範囲で石組側溝が検出されたことで脇櫓の屋根の範囲を推定でき、脇櫓の平面形を考える上で重要な情報が得られた。



(S=1/500)

第1図 調査区の位置



第2図 1区:全景写真(北西から)



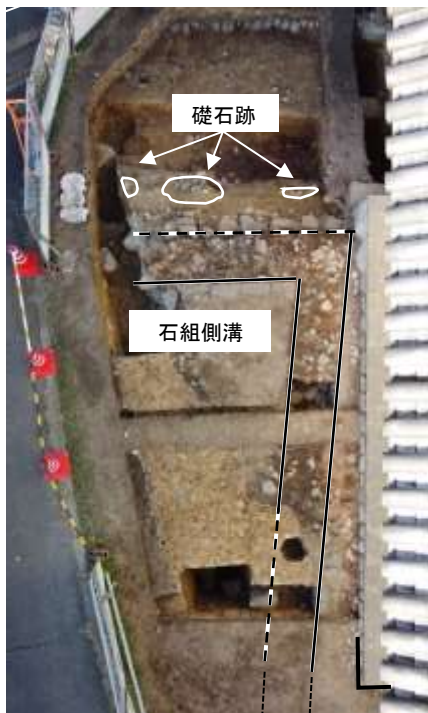
第3図 1区:埋設管設置状況(西から)



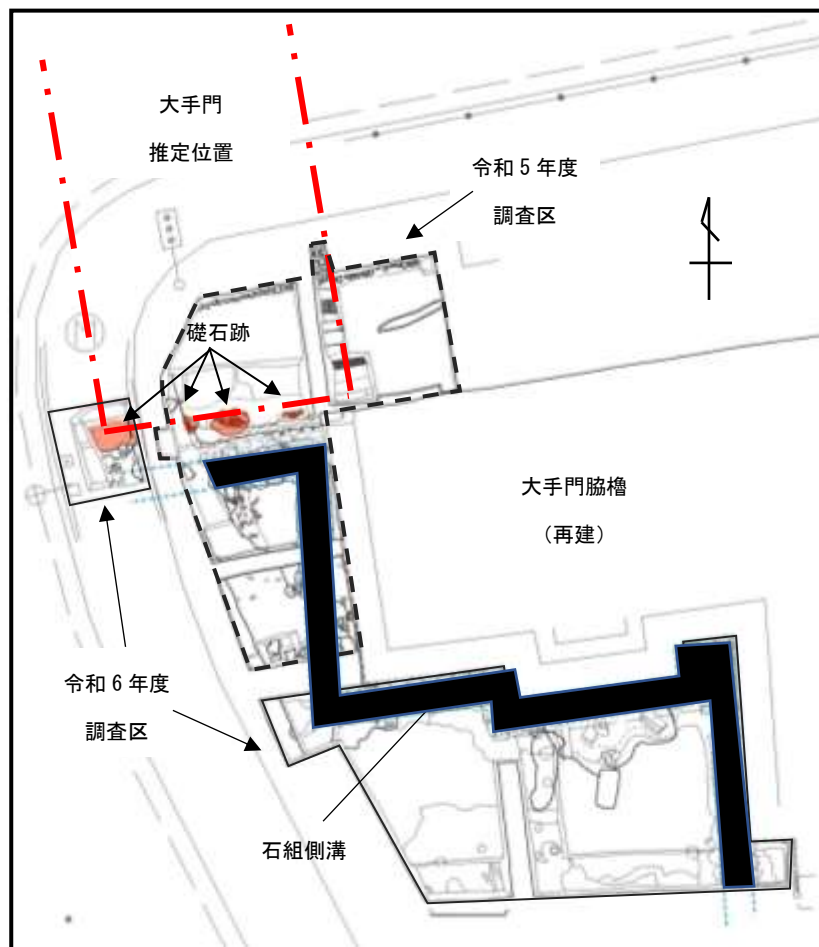
第4図 2区:石組側溝底面(北東から)



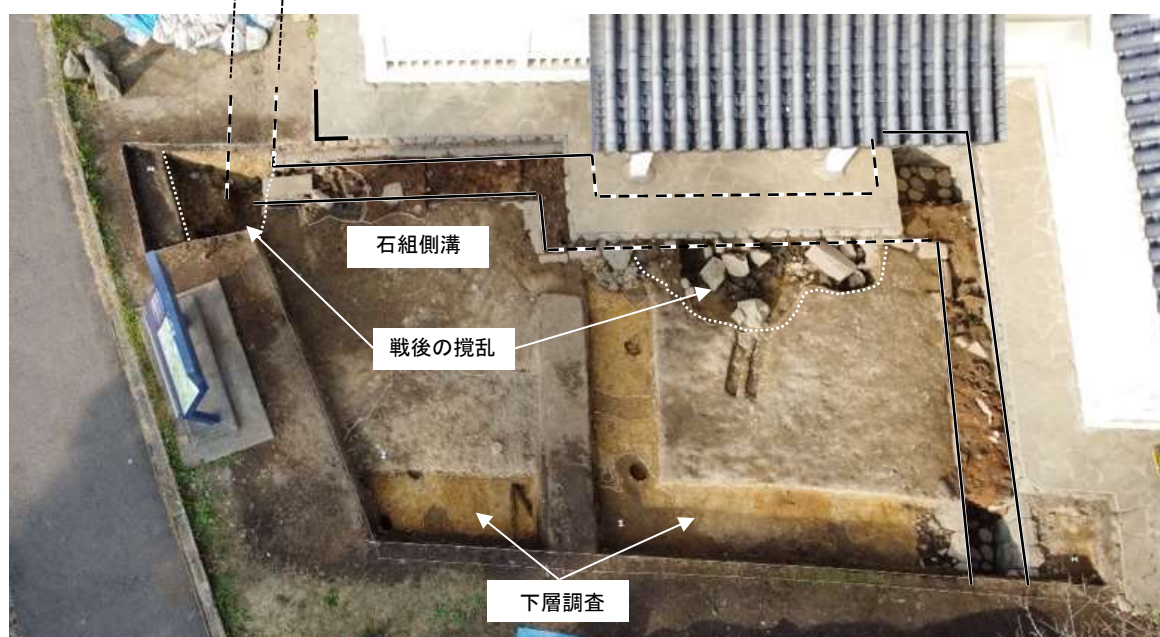
第5図 2区:石組側溝断面(西から)



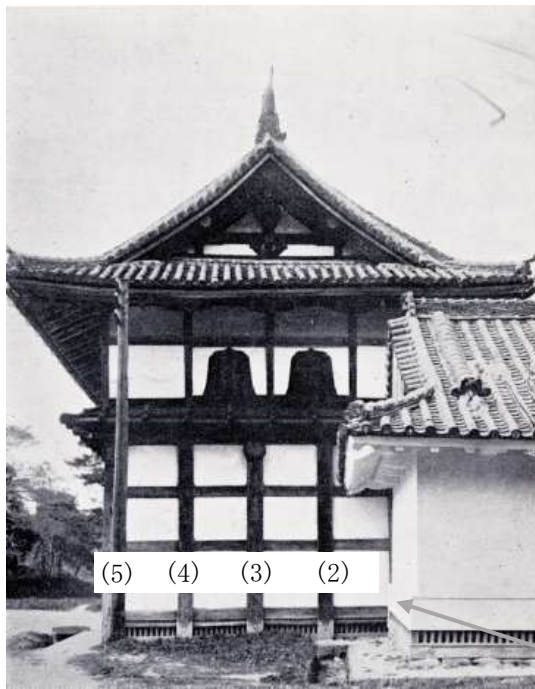
第 6 図
令和 5 年度調査区
写真



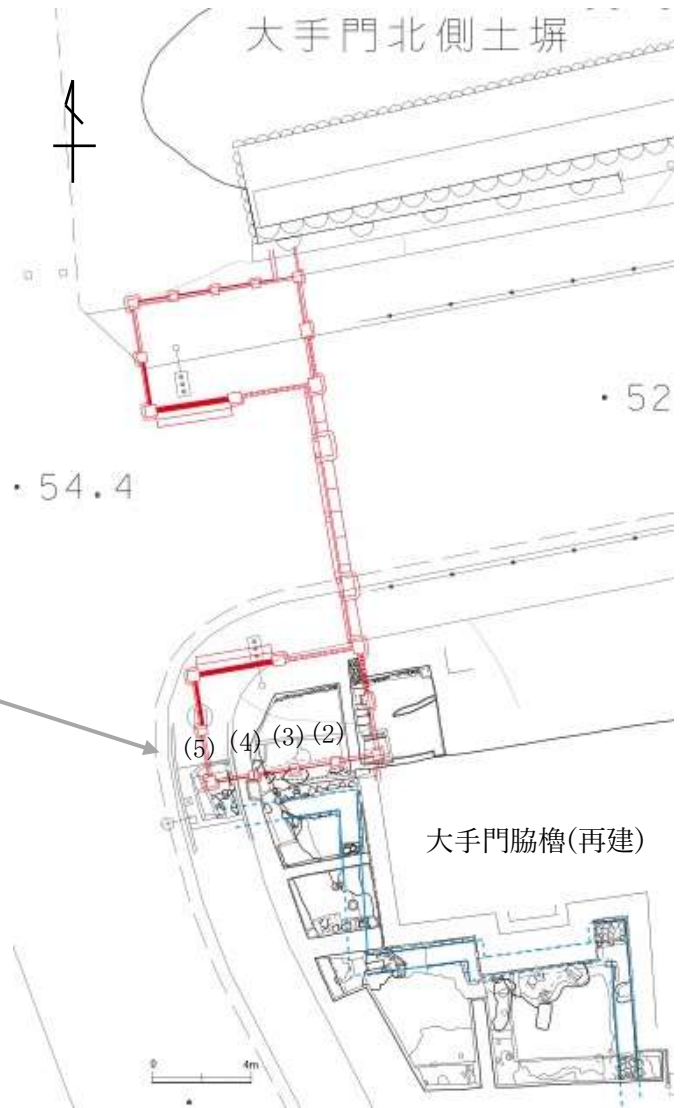
第 7 図 令和 5 年度, 6 年度 (2, 3 区) 調査区平面図 (S=1/200)



第 8 図 2 区: 全景写真



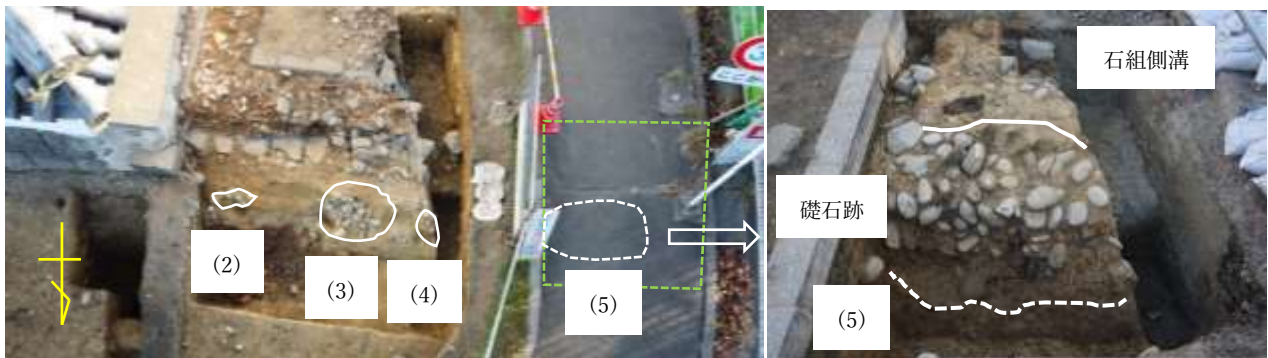
第9図 大手門南面全景
『仙台城』（仙台市教育委員会 1967
に番号を加筆）



第10図 大手門跡の位置推定図
(小倉強「仙台城の建築」掲載図面のトレース
を合成)



第11図 3区:礎石跡(西から)



第12図 令和5年度・令和6年度検出の礎石跡と石組側溝(北から)(番号は図9,10と対応)